

2024年3月期 決算

2024年4月26日
株式会社デンソー



2024年3月期 決算のポイント

1. 当期の売上収益は、日米を中心とした好調な車両販売、円安の進行、注力領域製品などの拡販により、前年比で増収
営業利益は、操業度差益や為替差益、合理化努力があるものの、品質引当により、前年比で減益
2. 来期の業績は、注力領域製品などの拡販と、合理化努力、変動対応の更なる強化を推進し、売上収益は7兆3,500億円、営業利益は7,140億円
3. 当期の年間配当は55円（前回公表比+3円）、来期予想は64円（前年比+9円）とし、今後も長期安定的にDOE（株主資本配当率）水準を向上させていく

2024年3月期決算のご説明をいたします。
ポイントは、3点です。

まず、1点目は当期の実績です。

当期の売上収益は、日本・北米を中心とした好調な車両販売、円安の進行、電動化・安心・安全製品などの注力領域を中心とした拡販の実現により、前年比で増収となりました。

営業利益は、操業度差益や為替差益、合理化努力があるものの品質引当により前年比で減益となりました。

2点目は、来期の業績予想です。

日本での減産や中国・アジアでの販売不振など、外部環境が不透明な中ではありますが、電動化・安心・安全製品の拡販と、合理化努力、変動対応の更なる強化を推進します。
これらを反映し、売上収益は、7兆3,500億円、営業利益は7,140億円とします。

3点目は、配当についてです。

当社は「長期安定的にDOEの水準を向上させ、株主の皆様へ還元する」という考え方を軸に、当期の年間配当を前回公表から3円増配し、55円とします。
来期の年間配当は、当期から9円増配の64円を予定しております。

2024年3月期 連結決算

【単位：億円、%】
（売上収益比）

	23/3期実績		24/3期実績		増減額	増減率
売上収益		64,013		71,447	+7,434	+11.6%
営業利益	(6.7%)	4,261	(5.3%)	3,806	△455	△10.7%
税引前利益	(7.1%)	4,569	(6.1%)	4,362	△206	△4.5%
当期利益(※1)	(4.9%)	3,146	(4.4%)	3,128	△18	△0.6%
ROE(※2)		7.3%		6.3%	-	△1.0%

前提条件	為替レート	1ドル	135.5円	1ドル	144.6円	9.1円 円安	-
		1ユーロ	141.0円	1ユーロ	156.8円	15.8円 円安	-
		1元	19.7円	1元	20.1円	0.4円 円安	-
	国内車両生産		792万台		853万台	+61万台	+7.7%
	海外日系車生産		1,696万台		1,787万台	+91万台	+5.4%

(※1) 親会社の所有者に帰属する当期利益

(※2) 自己資本利益率

次に、連結決算の概要について、ご説明いたします。

売上収益は、7兆1,447億円と、
前年比プラス7,434億円、プラス11.6%の増収となりました。

営業利益は、3,806億円と、
前年比マイナス455億円、マイナス10.7%の減益となりました。

2024年3月期 売上収益（得意先別）

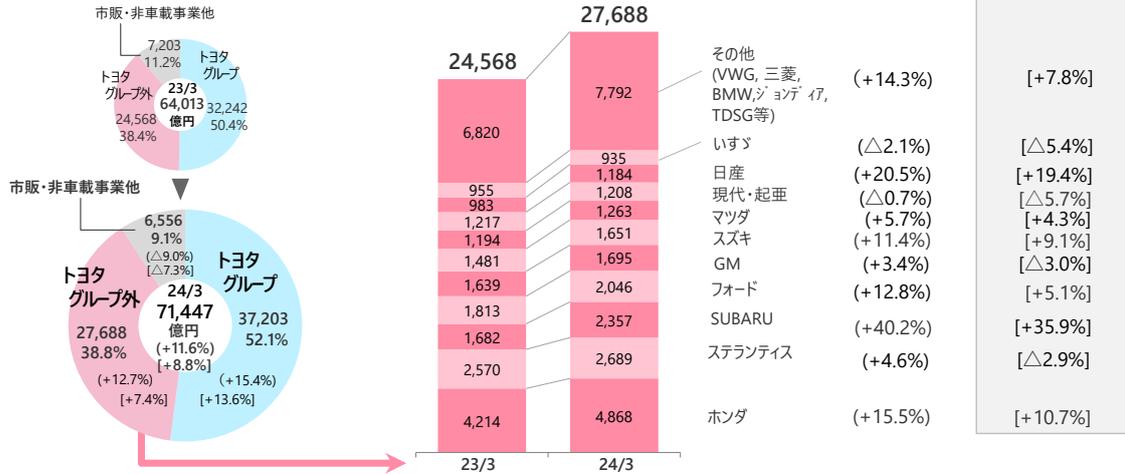
【単位：億円】
 (前年比増減)
 [物量ベース増減(為替除く)]

売上収益	64,013	⇒	71,447	
・トヨタグループ	32,242	⇒	37,203	(+11.6%)
・トヨタグループ外	24,568	⇒	27,688	(+12.7%)

前年比増減

物量ベース増減
(為替除く)

[+8.8%]
[+13.6%]
[+7.4%]



DENSO
Crafting the Core

FY2024 Financial Results / April 26th, 2024
 © DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

3/12

次に、売上収益について
 得意先別・製品別にご説明いたします。
 ご説明は、為替の影響を除いた現地通貨ベースです。

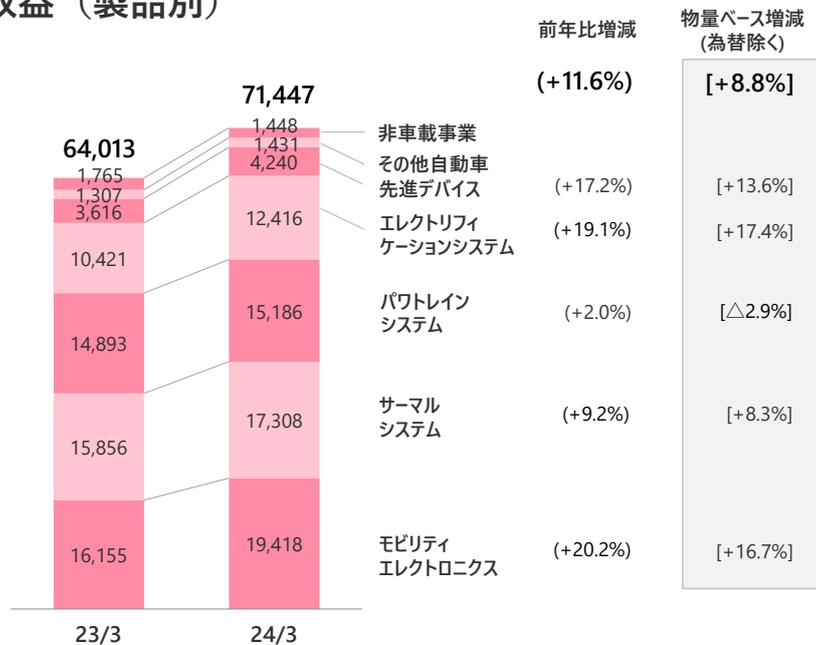
半導体不足が緩和傾向にあり、車両生産が回復基調にあることから、
 全体では前年比プラス8.8%になりました。
 特に日本・北米での車両生産の回復が大きく、日系得意先が回復を牽引しました。

2024年3月期 売上収益（製品別）

【単位：億円】

（前年比増減）

〔物量ベース増減(為替除く)〕



DENSO
Crafting the Core

FY2024 Financial Results / April 26th, 2024
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

4/12

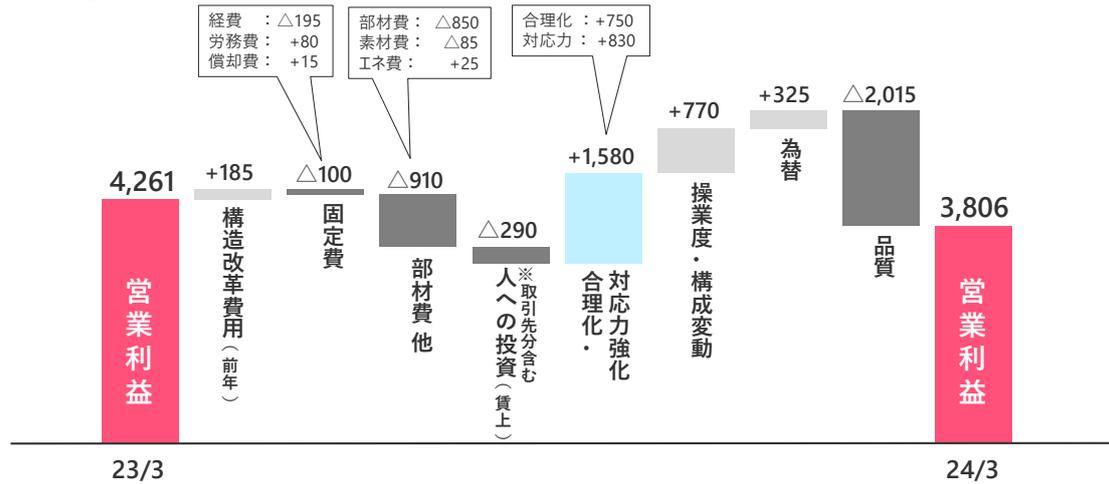
製品別においては、
電動化製品や安心・安全製品の拡販が全社の成長を牽引しました。

具体的には、
エレクトリフィケーション事業におけるインバーターやモータージェネレーター、

モビリティエレクトロニクス事業においては
先進安全システムのGSP3やHMI-ECUなどの増加によるものです。

2024年3月期 営業利益増減要因（前年比）

【単位：億円】

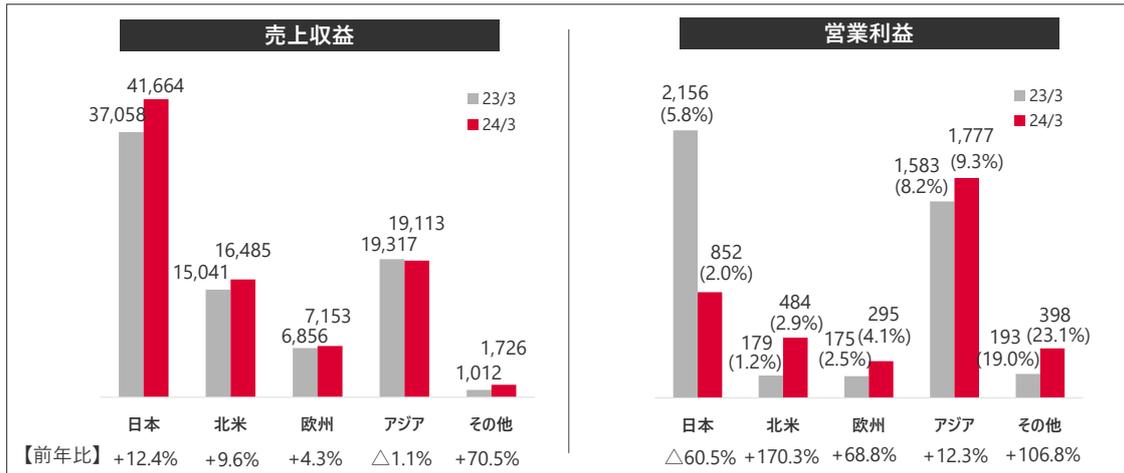


次に、営業利益の増減要因をご説明いたします。

電子部品を中心とした部材費などの高騰や人への投資は、合理化・対応力強化の効果で打ち返すことができました。加えて車両生産の回復による、操業度差益などの増益要因があるも、品質引当により、前年比で減益となりました。

2024年3月期 所在地別セグメント情報（前年比）

【単位：億円】
（売上収益比）



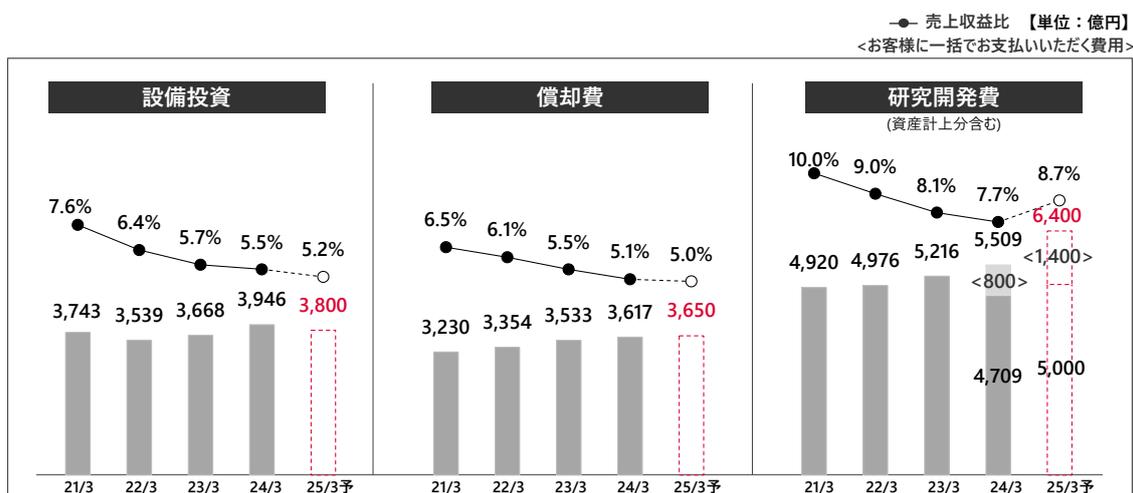
※為替影響を除く：前年為替レートを使用（135.5円/ドル、141.0円/ユーロ、19.7円/元）

次に、地域別の状況です。
ここでは、日本以外の地域は、
為替の影響を除いた現地通貨ベースでご説明します。

売上収益は、
中国の車両販売不振影響があるアジアを除き、
半導体不足の緩和による市場の回復や拡販により、
各地域で前年比増収となりました。

営業利益は、
品質引当があった日本を除き、操業度差益や採算改善努力により、
各地域前年比増益となりました。

設備投資・償却費・研究開発費の推移



次に、設備投資、研究開発費です。

設備投資の当期の実績は、ハンガリーや中国での電動化製品の量産開始に伴う増加により前年比プラス278億円の3,946億円となりました。

来期の予想は、電動化や先進安全などの注力領域への投入を加速しつつも規律を持った投資精査を確実に実行し、3,800億円といたします。

研究開発費の当期の実績は、前年比プラス293億円の5,509億円です。

来期の予想は、売上収益比率9%以内の目線を意識しながら、6,400億円といたします。

大規模化するソフトウェア開発を中心とした体制強化により、前年比大幅増となりますが、うち前年比プラス600億円となる1,400億円については費用発生段階でお客様から一括でお支払いいただく案件となります。

これは、単にお支払いの時期を早めるだけではなく、当社の技術力で創出した無形の価値を認めて頂く、ビジネスモデルの変革だと考えています。

当社は、今後も競争力の源泉である研究開発を強化するとともに、その価値をお客様に認めて頂く活動を推進していきます。

2025年3月期 通期予想

【単位：億円、%】
(売上収益比)

	24/3期実績	25/3期予想	増減額	増減率
売上収益	71,447	73,500	+2,053	+2.9%
営業利益	(5.3%) 3,806	(9.7%) 7,140	+3,334	+87.6%
税引前利益	(6.1%) 4,362	(10.5%) 7,720	+3,358	+77.0%
当期利益(※1)	(4.4%) 3,128	(7.2%) 5,260	+2,132	+68.2%
ROE(※2)	6.3%	9.2%	-	+2.9%

前提条件	為替レート	1ドル	144.6円	1ドル	145.0円	0.4円 円安	-
		1ユーロ	156.8円	1ユーロ	155.0円	1.8円 円高	-
		1元	20.1円	1元	20.0円	0.1円 円高	-
	国内車両生産	853万台	884万台	+31万台	+3.7%		
海外日系車生産	1,787万台	1,796万台	+9万台	+0.5%			

(※1) 親会社の所有者に帰属する当期利益

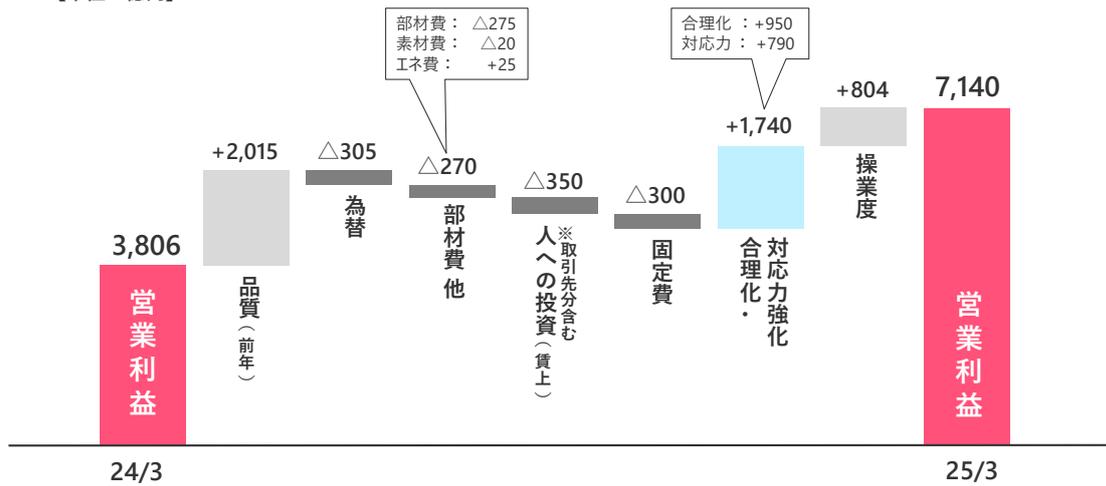
(※2) 自己資本利益率

次に、年間の業績予想です。

冒頭でも申し上げました通り、
売上収益は、7兆3,500億円、営業利益は7,140億円とします。

2025年3月期 通期予想 営業利益増減要因（前年比）

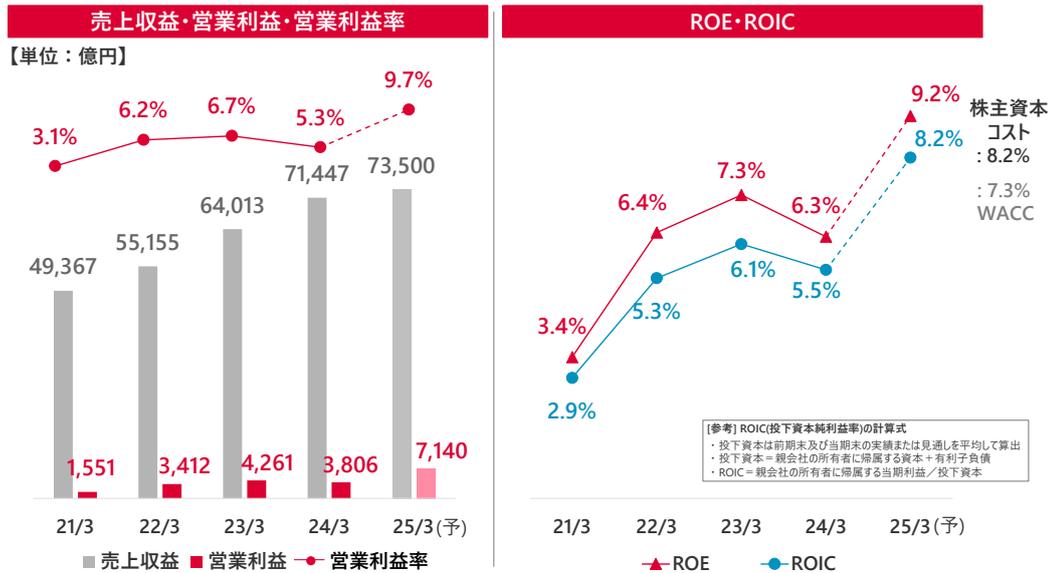
【単位：億円】



次に、通期予想の営業利益増減です。

ポイントのみお伝えしますと
 部材費の高騰影響の継続や、
 サプライヤー様を含む賃上げ影響の適正な価格反映を含む人への投資があるも、
 合理化・対応力強化をやりきることで、プラス3,334億円の7,140億円を目指します。

主な財務指標の推移



次に、主な財務指標の推移です。

当期のROEは6.3%に、ROICは5.5%となりました。

来期はROE%9.2%、ROIC8.2%となり、
25年中期目標で掲げたROE10%超に向け、
着実に収益体質を向上させていきます。

当社は、今後も理念・成長性・ROICという3つの判断軸を基に、
資本コストを意識した経営を、力強く推進してまいります。

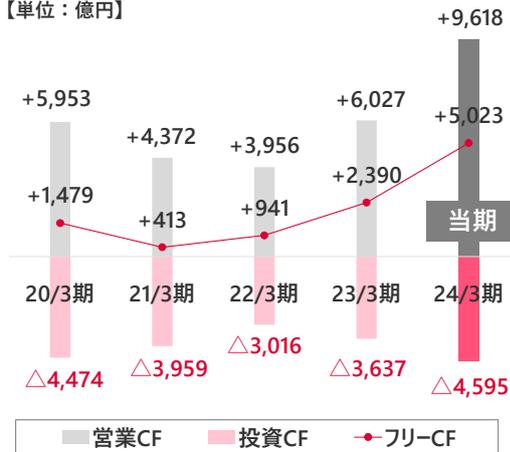
キャッシュフロー

当期活動のポイント

- ・ 政策保有株式 11銘柄（含む一部売却）の売却によるキャッシュ増（+856億円*）
- ・ 成長領域拡大に向けた設備投資（△3,916億円）に加え、戦略投資（△1,166億円）を実施

■ 連結キャッシュフローの推移

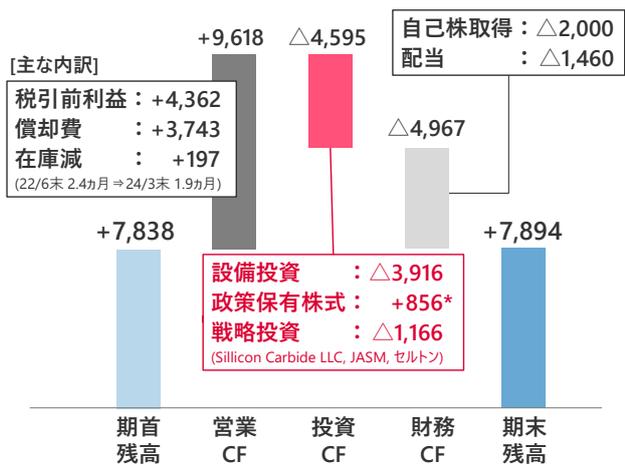
【単位：億円】



■ 当期のキャッシュフロー詳細

[主な内訳]

税引前利益：+4,362
償却費：+3,743
在庫減：+197
(22/6末 2.4か月 ⇒ 24/3末 1.9か月)



*2024年3月の佛豊田自動織機株式会社一部売却（売却金額402億円）については、2024年4月の入金のため含まれておりません
11/12

次に、キャッシュフローです。

当期営業活動による得られたキャッシュを成長領域へ投入すべく、3,916億円の設備投資に加え、1,166億円の戦略投資を実施しました。

また在庫は、外的要因の物量変動によって、グローバルに増加していた一時的な在庫をゼロにすべく、在庫基準を見直し、体質強化活動を推進しました。その結果、2022年6月に月商2.4か月だった在庫は、月商1.9か月水準まで削減することができました。

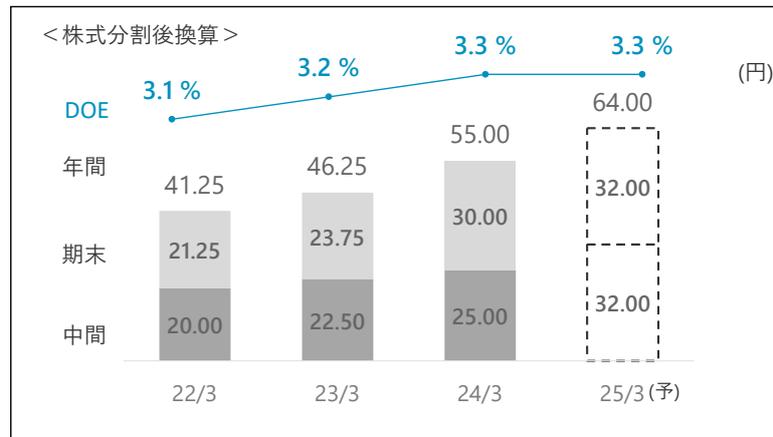
他政策保有株式は、当期過去最大の8銘柄の全数売却と3銘柄の一部売却を含む全11銘柄、1,258億円の縮減を完了し、2024年3月末時点の銘柄数は14銘柄に減少しました。尚豊田自動織機様株式の一部売却については、2024年4月入金のため、当期のキャッシュフローにおいては856億円の増加となります。

今後も出資先企業様との丁寧な対話を通じて、さらなる縮減を推進し創出したキャッシュを成長投資につなげることで、企業価値を向上していきます。

株主還元

24/3期：前回公表より3円増配し年間で55円

25/3期：中間32円/期末32円の年間64円を予定



最後に、株主還元です。

当期の年間配当は、前回公表から3円増配し、55円とします。
また来期の年間配当は、当期から9円増配して、DOE3.3%の64円を
予定しております。

今後も長期安定的にDOEの水準を向上させ、株主の皆様への還元を
強化してまいります。

以上で、2024年3月期決算のご説明を終了いたします。
ありがとうございました。

DENSO
Crafting the Core